



2023年2月15日（水）19時より、真庭市役所本庁3階にて。

真庭に暮らす人たちや関わりのある人たち、そのほか自然環境などが「共生社会」に向かえるよう「共生社会推進市民会議」の設立を想定。世話人会、発起人会、市民会議と共生社会の輪を広げていくため、第6回世話人会を開催した。



第5回世話人会を受け、第6回までに趣意書の素案を作成、提出することとなった。（別紙参照）

イラストについては、別紙の「趣意書用イメージボード（案）」のとおり。テキストは、多様性・居場所・対話をキーワードに、中学生でもわかるよう、なるべく行政的な言葉は避け、また共生社会を押しつけないよう配慮。また、この会議への参加ではなく、居場所づくりへの賛同を呼びかけるように、自分ごととして感じてもらえるよう作成。

ただ、テキストを作成するなかで、「この着地は一体、どこなんだろう」と疑問を持つように。「一体、だれが主語で、だれに対してどんな行動をしてもらうものなのだろう」と思うようになった。その疑問をそのまま第6回で尋ねようと考えた。



趣意書の素案について、主にテキストへのご意見をいただいた。

- ・これまでに、この場で話された言葉がもっとあるのではないかな。
- ・甲田らしさ、この世話人会の会議らしさを出してほしい。
- ・もっと「自然」も表現してもらえたら。
- ・テキストからネガティブな印象を受けるのではないかな。

その他、テキストの細かな修正など。

話をしていくなかで、そもそも「この趣意書を持って、果たして何をするのか」「具体的には何をするのか」という話に至り、今後どのようにしていこうか、という話になった。

- ・いま、すでにあるさまざまな「居場所づくり」に繋がっている会をもっと知りたい。
 - ・この世話人会のような「対話の場」がもっと生まれるきっかけをつくりたい。
 - ・それらが、アメーバ的に広がっていったら。
 - ・高齢者をはじめ、孤立化を深めている人たちが集まれる場所ができればいいな。
 - ・この会議そのものをもっと広げられたら、と思う。
 - ・共生社会を「運動」にしていきたい。
-
- ・自分がどういう場がほしいか、と考えると、対話の場よりも「こたつでみかんを食べている時間」だったりする。だれかのためなら、わかるけど。
 - ・人の話は聞きたい。聞いていいのかわからないような、タブー視しているものも聞ける場はなかったりする。
 - ・知るきっかけがほしい。
-
- ・おおもとにかえて、この世話人会を呼びかけたのはだれか。
 - ・市役所が呼びかけ、これまでの市役所的な「組織」で引っ張っていくものではない。共生社会は市民運動にしていきたい。
-
- ・市民運動を広げていくうえで、「なにをやるの？」「これをやるんだよ」「どうして？」「それは、こうだからだよ」と言えるものをつくりたい。
-
- ・ファシリテーションとは、安心の場をつくること。「ここで表現していいんだ」と思える人を増やすこと。そう考えたら、ファシリテーターを増やしていくこともひとつ。
 - ・共生社会のように、普段はぜんぜん接点のない人がどういうふうと一緒に話を聞くのか、対話をするのか、と考えたら、これまでとはまったく別の切り口が必要になるのではないか。
 - ・それがたとえば、アートかもしれない。
-
- ・接点のない人たちが集う場所は、意外と学校やとなり近所だったりする。そういう場でこそ安心できるように考えるのが、共生社会ではないか。
-
- ・市役所としては、「共生社会をしていくんですよ」と市民の皆さんに伝えるものがいるのではないかと考えている。
-
- ・具体的にこの共生社会市民会議を動かすことを考えたら、それぞれ課題に感じているテーマや勉強したいテーマを持ち寄って、対話の場を設けることではないか。
-
- ・「これをやるんだ」という意思ある人がいないと、運動にはならない。



話が多岐にわたり、なかなか捉えられなかったが、「知らないこと」が多すぎると感じた。「知るきっかけ」があれば、共生社会の運動や居場所づくり、対話の場づくりに繋がっていくのではないかと。

多くの「知るきっかけ」のなかに、自分が学びたいこと、自分が課題に感じていることを見出すことができたなら、行動になるのではないかと感じた。市民運動には自発性が欠かせず、その「きっかけ」をいくつも用意できれば、と思った。

たとえば、これまで話し合ってきた「各テーマの対話（たとえば引きこもりや障がい、子育てや LGBTQ など）」も、すでにあるもの、新しく立ち上げるものを知ってもらうきっかけがあれば、少なくとも「参加」への足掛かりになるのではないかと。

そして、趣意書とはその「参加」の背中を押すもの、あるいは「こういう場があるんだよ」と知ってもらうものではないかと、考えていた。

今回は、年度末ということも鑑みて、クローズドで趣意書（イラスト・テキスト）を用いて、市長を交えて開催することになった。